

研究課題 (テーマ)	糖尿病透析患者における食事関連ライフスキル尺度のカットオフ値の検証：セルフケア行動、QOL との関連から		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	成人看護学慢性期講座	講師	濱野 初恵
分担者	富山市立富山市民病院	看護師	松木 理浩
	富山市立富山市民病院	医師	大田 聡
	千葉大学予防医学センター研究員	理学療法士	森 優太
研究結果の概要			
<p>【背景・目的】</p> <p>糖尿病透析患者は、非糖尿病透析患者に比べて栄養障害を発症しやすい[Hirata et al., 2019]。この栄養障害は、QOL、虚弱性、感染症のリスク、および死亡率の増加と関連している[Ikizler,2013; Kalantar-Zadeh et al.,2011]。したがって、糖尿病透析患者の栄養状態の改善は、喫緊の課題となっている。特に、糖尿病透析患者は、食事療法や治療に伴うライフスタイルの変化により、食事管理が困難になっているため、患者自身が持つスキルを活用しつつ、医療者による適切な介入が求められる。本研究では、食事関連ライフスキルがセルフケアおよび生活の質(QOL)に及ぼす影響を明らかにするとともに、食事関連ライフスキルのカットオフ値を設定することを目的とした。</p> <p>【研究方法】</p> <p>1.研究デザイン 無記名自記式質問紙による横断調査研究</p> <p>2.対象者 全国の医療機関に通院している糖尿病透析患者</p> <p>3.実施方法 血液透析療法を実施しており研究協力の同意が得られた 27 の医療機関にて、無記名自記式質問紙調査を行った。154 名より回答が得られ、そのうち有効回答数は 141 名(有効回答率 91.6%)であった。</p> <p>4.調査内容 基本属性、食事関連ライフスキル、ソーシャルサポート、FIM、栄養状態、セルフケア能力、包括的健康関連 QOL</p> <p>5.分析方法 記述統計、多変量解析を用いて影響因子を決定し、重回帰分析を実施する。セルフケア能力のカットオフ値は、ROC 曲線を用いた解析を行い、得点分布上の感度と特異度を考慮し、Youden Index 法にて設定する。</p> <p>本研究結果は、現在論文投稿に向けた執筆段階にある。 ご協力いただきました医療機関関係者の皆様ならびに糖尿病透析患者様に感謝申し上げます。</p>			
今後の展開			
<p>今後は、予測したカットオフ値の妥当性を検証するとともに、長期的な予後との関連性を分析し、実用性を評価する。また、教育プログラムへの実装を検討し、臨床応用の可能性を探る。</p>			